

## 長野県新総合交通ビジョン検討委員会（上小地域・意見交換会） 議事要旨

- 1 日 時 平成 24 年 8 月 8 日（水）午前 11 時～午後 0 時 35 分
- 2 場 所 上田市役所 6 F 大会議室
- 3 出席者 （敬称略、順不同）：20 名

### 【地元市町村長】

氏 名	所 属 等
モライ ソウイチ 母袋 創一	上田市長
ハナオカ トシオ 花岡 利夫	東御市長
サイトウ エイジ 西藤 栄二	長和町副町長（長和町長代理）
ミヤハラ タケシ 宮原 毅	青木村長

### 【検討委員】

氏 名	所 属 等
クロカワ タケシ 黒川 洸	一般財団法人 計量計画研究所 代表理事
アオキ マミ 青木 真美	同志社大学商学部 教授
イシイ ハルオ 石井 晴夫	東洋大学経営学部 教授
クボタ カツシ 久保田 勝士	長野県町村会総務文教部会（高山村長）
スズキ フミコ 鈴木 文彦	交通ジャーナリスト
タカセ タツオ 高瀬 達夫	信州大学工学部 准教授
マシヤマ ヨリコ 益山 代利子	松本大学 総合経営学部 准教授
ヤナギサワ ヨシヤス 柳澤 吉保	長野工業高等専門学校 環境都市工学科 教授

### 【オブザーバー】

氏 名	所 属 等
ヤナギヤ サトシ 柳谷 哲	国土交通省 関東地方整備局 長野国道事務所長 （国土交通省 関東地方整備局 企画部長代理）

【説明者】

氏名	所属等
フジモリ ヤスオ 藤森 靖夫	上小地方事務所長
トヤ カツヒコ 戸谷 勝彦	上田建設事務所長
ミヤカフ キミコ 宮川 公子	上田保健福祉事務所長

【事務局】

氏名	所属等
ホッタ フミオ 堀田 文雄	長野県 企画部 交通政策課長
ワタナベ タカヒデ 渡辺 高秀	長野県 企画部 交通政策課 課長補佐
ホソカワ ヤスシ 細川 康	長野県 企画部 交通政策課 課長補佐兼交通企画係長
ウツノミヤ キヨシ 宇都宮 純	長野県 企画部 交通政策課 課長補佐兼空港活性化係長

4 黒川委員長あいさつ

ご多用のところ、お集まりいただきありがとうございます。

この委員会は、15年後を見通し、どのような交通政策を行なったらよいかということ、知事から諮問を受けた委員会で、それぞれの地域にお邪魔して、地域を代表する首長様方からご意見を伺っているところです。

上小地域の皆さんとの意見交換会が最後となりますが、ビジョンを策定するにあたり、ご忌憚の無いご意見をいただき、有意義な意見交換となるようご協力をお願いいたします。

5 会議事項

(1) 地域の概況について

上小地域の概況について

資料1に基づき、藤森上小地方事務所長から説明があった。

長野国道事務所管内の概況について

資料2に基づき、柳谷長野国道事務所長から説明があった。

上小地域の道路整備状況について

資料3に基づき、戸谷上田建設事務所長から説明があった。

(2) 意見交換

以下のとおり、出席者による意見交換が行なわれた。

(母袋上田市長)

15年後まで見通しての新交通ビジョンということだが、15年後の交通の様々な視点、必要性・重要性は増していくと思う。要望として、今後15年でどんな変化が起き、何が起こるのかということを経営に明記することを期待する。

県内各地域で交通の事情は違う。各地域にあったものとするために、県の出番の強化をお願いしたい。

道路は県民にとって便利なものになっているか。観光客にとっては、移動しやすい公共交通の広域ネットワークが必要。それがないと車での移動となる。

上田市の公共交通の現状と課題について申し上げますと、努力はしているが、利用者が減少する一方、事業費は増大しており、市の財政負担は大きい。

公共交通は社会基盤であり、高齢者等の移動手段や観光振興に結びつくことが必要。

事業者からは経営努力は限界にきていると聞き、廃止路線も毎年増えている状況。

バスと鉄道の問題もある。バスの財政支援は、毎年増加傾向にある。利用者を増やすことが課題。今年は試験的に、夏休みの間、小学生以下の子供にキッズパスを発行し、パスを持っている子供については、バスを無料で乗れるように取り組んでいる。

また、来年度に実施を検討しているのは、バス運賃に上制限を設けること。

鉄道は、しなの鉄道、上田電鉄別所線があるが、かつては、民間鉄道は5路線あった、上田電鉄別所線については、安全対策への支援の必要性について、慎重に検討した結果、市で財政支援をしている。毎年約1億円程度を支援しており、8年間で8.5億円を支援した。(国庫補助制度の)ルール他に、市独自のかさ上げをし、事業者負担を減らしている。行政だけではなく、沿線の住民も支援活動を行っている。

ビジョンに盛り込んでいただきたいこととして申し上げますと、高齢者の増加等、交通弱者の問題にどう取り組むか、公共交通の問題は福祉的色合いが濃くなっている。県民の日常生活を支える公共交通は、県の責務を明らかにして欲しい。交通基本法を審議しているが、県の支援の拡大をお願いしたい。

北陸新幹線が金沢まで延伸すると、時間的距離的にも東京 - 金沢間の真ん中が上田になる。上田駅をハブ駅としてここからバスで各地に散らば

るようになる。具体的には上田駅を拠点に、安曇野、松本、草津、群馬。新幹線延伸に向け、駅を拠点とした利便性の高いものとしたい。

ネットワークは大切であるので、高速道路以外（の有料道路）は、早期に無料化してほしい。県の役割は存在するので、積極的な関与を期待する。

（委員）

上田駅をハブ化するというが、群馬県はどこまでがエリアになるのか。

（母袋上田市長）

真田氏が関わった沼田方面まで。特に、嬭恋、草津までがエリアになる。

（委員）

そのエリアには日本のロマンティック街道もあるが、上小地域の住民にとっては、胸に触れているのか。

（母袋上田市長）

正直、触れていない。（移動に）時間がかかり過ぎる。上信自動車道の整備をお願いしたい。

（委員）

県の責務は何だと考えるか。

（母袋上田市長）

一つは、公共交通の主要幹線である道路、鉄道について、県の出先機関も加わって協議すれば方向が見えてくる。

（藤森上小地方事務所長）

定住自立圏構想で市町村が一緒になってやろうと取り組んでいるところ。定住自立圏や広域連合と一緒にやらなければと考えている。現在、地域ビジョンの策定をしているところだが、交通についても、県の現地機関の責務として取り組んでいく。

（母袋上田市長）

これまで基盤整備に力を入れすぎた。交通環境の問題はソフトだが、県の支援がないし、こちらから要望もしてこなかった。定住自立圏の中で

の今後の課題である。ビジョンの中で新たな支援をお願いしたい。

(花岡東御市長)

市内の公共交通は、しなの鉄道の駅が2つある。かつては、信越線の動脈であった。(鉄道に関する事業について)しなの鉄道は国鉄のような負担はできないので、その負担をどうするかが問題。3者協議の仕組みが残っていて、(事業に対する)しなの鉄道の意向が強い。我々から見て過度な安全性を求め、費用がかかっているように思える。架線(の上空横断や軌道下を)くぐるのに負担金が必要となる(場合もある)が、しなの鉄道では負担できないので、事業が進まない。

しなの鉄道は、簡便な公共交通と位置付けるべきだが、簡単な駅舎にして、周囲を宅地化して、都市機能を持った駅とすることができるのではないかと考える。しなの鉄道は、実情にあった負担と公共事業の関係に目鼻をつけてほしい。上田駅をハブにしてほしいと地元では思っている。上田駅から広域周辺にどうアプローチできるか。例えば、事前に申し込めばミニツアーに参加できるような取組なら地元貢献できるのではないかと。

高齢者対応のためにバスに代わるものとしてデマンド交通を運行している。1日平均175人が利用しているが、国、県からの支援策がないので、公共性のあるものに対しては、支援策を検討してほしい。高齢者が地域に住み続けられる支援策が必要と考える。

(委員)

しなの鉄道の新駅構想はリアリティはどれくらいあるのか。

日本の幹線鉄道から代わって、地域の鉄道となる可能性はあるか。

(花岡東御市長)

軽井沢と上田の間で標高差はあるが、東御市には1,2カ所(候補地が)ある。数百人の規模の利用者が見込まれるが、駅舎で数億円かかると、経済効果的にも事業は実施できないし、簡便性がないと、地元としても事業の実施はできない。

(委員)

それは、オールド国鉄マンの発想。現在のJRの職員は柔軟に考えるので、もう一度相談することを勧める。

(西藤長和副町長)

長和町に、公共交通で来るには、上田駅からＪＲバスしかないが、１時間に１本しかないので、不便さがある。

町内は道路網が整備されているので、役場から佐久平駅や上田駅まで車で３０～４０分、佐久、岡谷インターチェンジまで３０～４０分で行ける。

町内は、ＪＲバスのみで町の補助で運行している。通勤・通学や町内の巡回バスをＪＲに委託している。免許を持たない高齢者が多く、高齢化率も３０％を超えている。生鮮食料品等を扱う店も撤退して、歩いて買い物に行くことができない。

買い物、通院、風呂に行くのに巡回バスを利用している。委託料は年間１億円程かかっている。料金は１００円で、７５歳以上と障害者は５０円。利用者は少なく、空気を運ぶバスとなっているところもあるが、なくす訳にはいかない。町がＪＲに委託しないとＪＲは撤退する。１億円でＪＲに委託しているが、違う交通手段を考えるべきかの岐路に立っている。公共交通がない町の中でどうやって足を確保するのか、町がバスを運行できればよいが、色々な兼ね合いがあってゴーサインが出せない。

(委員)

ＪＲから他に代えるというのはどういうことか。

(西藤長和副町長)

デマンド交通やマイクロバスを町で運行するという方法である。

(委員)

町で運行する方が高くなる。隠れた費用を表にしないと(全体の費用は)分からない。ＪＲが受託してくれる内は、ＪＲにお願いした方がよい。

町の財政の規模はどれくらいか。

(西藤長和副町長)

一般会計で５２億円である。

(宮原青木村長)

青木村は、上田市から１４km入ったところにある小さな村で、村内で交通を考えなければならない。上田市までは、車で２５分で移動できる。村内はデマンド交通を運行している。上田 - 青木間は千曲バスが幹線路線を運行している。上田市に出る千曲バスは、１時間に１本で本数が減ら

ないことを願っている。赤字で千曲バスが撤退することを恐れており、上田市に通う高校生に定期の半額を補助している。従来は、親の送迎だったが、今は村内の高校生の80%がバスを使っており、千曲バスの存続に繋がっている。赤字路線の維持については、国、県で補助している。バス事業者の支援については、県も十分に考えてもらいたい。従来通り運行を続けて、バス事業者が撤退しないようにしてほしい。

松本までの道路整備は、県に取り組んでもらっているが、今後も引き続きお願いしたい。バス事業者への県の支援をお願いしたい。

(委員)

3点ほど伺いたい。一つ目は、上田市に日常生活を依存しているエリアについて、立科町、坂城町も含まれているし、群馬県の嬭恋村も上田に依存しているようだが、エリアとしてはどこまでになるのか。

二つ目は、上小地域内は上田市に出てくる率が高いが、日常における上小地域内の移動と佐久地域、長野地域への移動の比率はどれくらいか。

三つ目は、先ほど説明があった、バスの上限運賃について、上田市を超えた(他の市町村まで運行する)分も含めての計画か。

(母袋上田市長)

日常生活の範囲としては、通勤・通学・商圈関係の利用が圧倒的に多いが、上小地域と嬭恋村の結びつきは歴史的にもある。

地域内と他の地域との移動では、鉄道利用の場合は、上小地域外への移動が多い。軽井沢の客が上小地域まで、鉄道で来てもらえるようになるとよい。

上限運賃は、当面は上田市内で限定して実施したい。結果がよければ、定住自立圏の皆様にも呼びかけられると思うが、具体的には、まだイメージができていない。

(委員)

東御市、青木村で運行しているデマンド交通の内容を伺いたい。

(花岡東御市長)

車両6台で運行しており、昼休みにも病院からのお客様に利用していただけのようにしている。商工会に委託しており、商工会で臨時職員を雇っている。前日までに予約し、ドアツードアで運行する仕組みとなっている。5,800万円で委託しており、運賃は1回200円で、乗り継ぎも認め

ており、市の中心部での乗換も可能となっている。

(宮原青木村長)

マイクロバスとワゴンを2台ずつ使い、日中はワゴン車がデマンド方式で自宅まで向かう。朝夕はマイクロバスで園児を運んでいる。商工会にオペレーションを委託しており、当日の朝まで、電話で予約を受ける。年間で3人のドライバーが運転しており、2,000万円の経費がかかっている。車両は、(国の)支援を受けて最近購入したので、修繕費はそれほどかかっていない。

(委員)

軽井沢に来る観光客の取り込みは大事。上田は観光資源が多い所。上田城址に行ってみようと思っても何があるか分からない。マイカーでやってきて、上田城址公園に停めるといふことも考えられる。素晴らしい観光資源があるのに、聞こえてこないのは残念。軽井沢に来る観光客の1割、80万人が上小地域にやってくるような取り組みをお願いしたい。軽井沢のアウトレットの40%がリピーターではあるが、上小地域には来ないのが現実。(情報が無いので)来てもどこに行ってもよいか分からない。

(母袋上田市長)

ご指摘いただいたその辺がこれまで欠けていた視点。どうやって解消するか、2年程前から取り組んでいる。上小地域の魅力を伝えるしかない。軽井沢町長とも話しをしており、上小地域に来て滞在してもらうことを考えている。

(委員)

軽井沢から上田までタクシーの料金はどれくらいか。(軽井沢に遊びにくる観光客は)片道15,000円位ならタクシーを利用してやってくる人も中にはいる。そういう人達は、地域に何があるのか、何かおいしいものはあるか、ということに非常に興味があり、必要な情報を発信することが大事。

(母袋上田市長)

観光と交通が密接な関係があることが分かったので、一生懸命取り組んでまいりたい。



(委員)

上田市には、別所温泉、鹿教湯温泉、丸子温泉があり、温泉地の活性化の余地はまだあると思うが、アクセスがネックになっていると思う。有料トンネルの無料化や別所温泉、鹿教湯温泉へのアクセスの改善はどのようなのか。

(母袋上田市長)

上田市と松本市は合併によって、隣り合う市となった。松本市の良さを取り込んでいきたい。短時間で行ける道路があればよくなる。上田 - 鹿教湯間の道路も改良している。トンネルの無料化の効果は大きいので、早期の無料化が大切。別所温泉から鹿教湯温泉への道路はあるが、狭くて危険なので迂回して行く。別所温泉より鹿教湯温泉の利用者の落ち込みが激しい。バスの高い運賃もネックになっている。

(戸谷上田建設事務所長)

別所温泉、鹿教湯温泉の道路の改良計画はあるが、厳しい財政事情もあり、なかなか進まないのが実情。

(委員)

上田 - 松本を結ぶ高規格道路を作って有料化とする案と有料トンネルの無料化のどちらを選択するか、検討してほしい。

15年後も個人的なスペースでの移動が主流なので、道路整備は必要である。高齢者は、行政、住民、事業者の負担で移動する。県内全てを公共交通でカバーするのは無理なこと。上田と松本を結ぶことが重要。各地に任せるとバラバラになる。

(母袋上田市長)

松本と東信の連絡はお粗末な状況で何とかしてほしい。

(委員)

佐久か上田のどちらかを松本とアクセスできるようにする時、有料道路を無料化すると上田を落とす理由になる。

昔は整備の順番を変えればよかったが、少子高齢社会ではそうはいかない。

(委員)

万が一、浅間山が噴火した時、上小地域は孤立する可能性があるが、県は、上田 - 松本間のアクセスを真剣に考えてほしい。

(委員)

東御市は、集落の高低差があり、しなの鉄道は、平行に走っているが、高低差のある集落を結ぶ交通を将来どう考えるか。インターチェンジをまちづくりにどのように使っていこうと考えているのか。

(花岡東御市長)

烏帽子からの扇状地は(南北に平均)4度の斜度で千曲川に落ちている。6度の斜度の道路は整備するなら市道となるので、南北線が遅れている。丸子地区から田中地区に抜ける道は、1日9,000台の車が通行し、6度の斜度があるが、(南北線を整備すると)この道が重要となり、東部湯ノ丸インターチェンジまでつなると全体として有効となる。

上信自動車道は県内は決定となっていない。インターチェンジを中心に計画はあるが、地形的に実現できていない。市役所は、インターチェンジから2km、田中駅から700mで市の中心に位置しており、まちづくりの可能性は高い。斜度で県整備の道路の協議が必要。

(委員)

上田市内には自主的にバス運行をしている地区があると伺っているが、現状はどうか。

(母袋上田市長)

上田市の豊殿地区というところで、全く補助がないところから始めた。現在は市で年間100万円程を補助している。路線を変えながら取り組んでおり、地区の全戸から年1,000円を徴収して運行している。住民が危機感を持ってもらうように、乗らないとなくなると言っている。

(委員)

色々ご意見をいただきましたが、時間もオーバーしておりますので、この辺で意見交換会を終了したいと思います。ありがとうございました。